

2021年2月9日

池田町長 養 聖章 様

池田町の財政再建を考える会  
世話人代表 高山 暁  
池田町の未来を考える会  
代表 安部 誠

### 来年度の予算編成についての質問状

池田町は、直面する財政危機に対して、昨年11月末の町民説明会での意見やパブリックコメントをもとに削減案に若干の手直しを行いながらも、基本的には昨年議会で素案を提示した通りの削減案で次年度の予算編成をすすめています。

住民からの要望や私たちの要望書でも明らかな通り、この財政危機について明確にすべき問題は、第1に、町長・副町長の責任問題であり、第2に、財政危機克服にふさわしい基本方針の提示であり、第3に、今度行財政改革をすすめるために、実効性のある行革推進委員会を早急に設置するということでした。

これらのどの問題についてもほとんど無視されて、現在に至るまで町民が納得できる方針は示されていません。また、1月末までに回答を求めた私たちの要望書(12月24日提出)についても、現在なおしかるべき返答は行われていません。

来年度の予算編成にむけての現時点での問題点について、論点を絞って改めて質問を行いますので、誠意ある回答を求めます。

この質問については、可及的速やかに(遅くとも2月末までに)文書でご回答ください。

### 記

#### 1. 町長・副町長の責任(とくに歳費削減)がなぜいまだに明確に示されないのか

今日の財政危機の最も大きな原因は、財政規律をないがしろにして投資的経費、経常的経費をともに増大させてきた、町長・副町長の財政のかじ取りの誤りにあります。

財政危機に直面していることは認識しながら、その原因と責任をいまだに認めず、自らの歳費削減などの措置に踏み込めないでいるのはどうしたわけなのでしょう。町民や議会から再三にわたってこのことを指摘されながら、なぜ現在まで曖昧にされたまま放置されているのかをお伺いします。

#### 2. 責任の一端は前町政にあるために養町政の財政危機についての責任は軽いと考えるのか 現在の財政危機の要因の多くが既決事業の持ち越しによるもので、現在の町長・副町長の

責任はそれほどではないかのような事実と異なった説明が行われてきました。

たとえば、社総交事業1つとっても、議会では最終計画案を策定するために、新町長の方針で処理するとの付帯決議がつけられていたことは周知の事実です。しかし、事業規模を縮小することができなかつたのはまぎれもなく甕町政だったのであり、それをすべて前町政の責任であったと強弁することはできません。

人件費、補助費の増大、公債費の増大に責任があるだけでなく、経常経費の不足を補うために財調に手をつけて、財調なしには予算編成ができない財政構造を作ってきたのは、甕町長、その補佐を最大の任務とする小田切副町長、さらには課長らの行政幹部ではなかつたのでしょうか。その責任は極めて重大であると考えますが、見解をお聞かせ下さい。

### 3. 責任を棚上げし財政再建の方針もなしにどのように予算編成を行ってきたのか

令和3年度の予算編成に際して、町民には生活に関係が深い項目の削減策は示されましたが、その元となるべき財政再建の基本方針が全く示されていません。予算編成方針は、前年度半ばに立案し、各課がそれにもとづいて予算要求をするものですが、町長・副町長の責任も明確にされず、さらに基本的な財政再建の方針ぬきにどのように予算編成作業が行われているのでしょうか。

### 4. 行政改革委員会をどのように設置するのか

美術館のあり方や議会の定数・議員歳費などについては、次年度に設置する行政改革委員会で審議し方向を出してもらおうという考えが町長から示されています。

しかし、これまでのところ、行政改革委員会をいつ、どのように設置するのか、その基本的な構想については何も示されていません。

現行の条例は、ただ町長の諮問機関を設置することができるということを定めているだけで、現在の財政危機に対応できる組織となる保障はどこにもありません。

委員会の目的、任務、構成などについての基本的な構想を早期に明示すべきではないのでしょうか。

以上

(備考)「甕町政の5年間をふり返って池田町の財政危機＝あらためて町長・副町長の責任を問う＝」を添付します。